

平成 30 年 5 月 3 日現在

機関番号：83101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12449

研究課題名(和文)博物館収蔵資料活用と波及効果の研究

研究課題名(英文)Study on the utility generated by museum collection materials

研究代表者

宮尾 亨(Miyao, Toru)

新潟県立歴史博物館・その他部局等・研究員

研究者番号：90245655

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：博物館収蔵資料のうち、実物である一次資料に対して、写真、図面などの二次資料が出版物などに使用されたものを三次資料と概念化し、地域アイデンティティ形成などへ寄与する状況を検討することを目的に、大衆消費文化の典型として商業出版物マンガの中に登場する考古資料を集成した。合わせて学校教育における社会科や芸術の教科書、歴史書や美術書などの商業出版物に使用された考古資料を集成した。結果、戦後に考古資料は歴史記述の標本として重視されるが、それに平行してあるいは戦前から原始美術として商業出版物に用いられていた。それらがマンガなどに描かれ、日本あるいは各地域のアイデンティティ形成などへ寄与した状況を把握した。

研究成果の概要(英文)：This study examines the way museum collection materials contribute to the formation of social identity. For that purpose, I created the database that records publications on which pictures of archeological materials in museum collection materials are posted. Publications recorded in the database include Japanese manga books, school textbooks for Japanese history and art, history books, art books etc. After the second World War, archaeological materials were useful as specimens describing the history in Japan. In parallel therewith or before the Second World War archaeological materials have been published in commercial publication as primitive art. Then archaeological materials in Japanese manga books are drawn based on photographs published in commercial publications such as art books etc. I think archaeological materials in Japanese manga books and commercial publications such as art books etc contributed to the formation of social identity in Japan or each Japanese region.

研究分野：考古学

キーワード：博物館収蔵資料 考古資料 マンガ 教科書 歴史書 美術書 波及効果 社会的アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

博物館に所属する研究員として、埋蔵文化財の中でも特に出土品(考古資料)を取り扱ってきた。いわゆる考古資料を対象にした研究における海外研究者との議論の中で、考古学的な研究課題とは別に、日本の博物館収蔵資料について、国内外で評価に違いがある印象を受けた。国内外における博物館収蔵資料の評価の違いは、これまでも指摘されてきた。事実、海外からの発信によって、日本国内で再評価された博物館収蔵資料は数多い。近年「クール・ジャパン」と呼ばれ、評価される独特な発展を遂げたいくつかの日本文化は、国内外における評価の差異に由来する。

日本国内における地方自治体が設置する公立博物館は、地域アイデンティティ形成に寄与することを設置条例に定められている場合が多い。しかしながら、それは博物館の有する機能、すなわち資料の収集保管、調査研究、展示公開、教育普及という多様な活動の総体として理解され、地域アイデンティティ形成への寄与を具体的に評価する手法は開発されていない。

地方自治体が設置する公立博物館では、その地域アイデンティティ形成への寄与を具体的に評価する手法の開発が要請されているにも関わらず、適格的な研究がほとんどない状況である。

2. 研究の目的

本研究は、博物館収蔵資料の中でも特に考古資料について、国内外で生じている博物館収蔵資料に関する評価の差異を利用し、地域アイデンティティ形成への寄与等波及効果を具体的に評価する手法を検討することを目的にする。

3. 研究の方法

博物館収蔵資料は、実物の一次資料と、複製、写真、図面などの二次資料に分類されることが一般的である。二次資料は一次資料の派生物であり、二次資料の多寡は一次資料の

研究履歴ともいえる。従来の博物館学資料論では、実際に博物館に収蔵され得る資料として、一次資料と二次資料の取り扱いを理論化してきた。

本研究では、それに加えて二次資料の利用頻度、すなわち博物館の提供した写真や図を用いた印刷刊行物その他の派生製作媒体を博物館三次資料と概念化し、その利用件数を指標として、地域アイデンティティ形成への寄与度を測定することを目指した。

そのために海外で評価された媒体を加えることで、国内外における評価の差異を明らかにする。海外での評価は、日本国内からみれば実物資料の海外流出の要因となり、国外博物館による収集・展示という活動に現れる。それを掲載した印刷刊行物その他の媒体を把握することは、その流出件数の把握にも寄与する。

近年、海外で「クール・ジャパン」の典型のひとつに評価されながら、日本国内ではポップカルチャーあるいはサブカルチャーと称され、博物館収蔵資料およびその研究成果の波及効果とみなされていなかった各種の媒体、特にマンガの中の模写などに利用される考古資料のあり方を集成することで、博物館収蔵資料活用の波及効果を検討する基礎情報を構築する。

4. 研究成果

事例研究として、博物館収蔵資料のうち、考古資料を取り上げた。特に研究代表者が所属する地域の公立博物館で取り扱っている縄文土器の中で「火焰土器」の通称をもつ資料群を主な対象に選定した。

近年、海外で「クール・ジャパン」の典型のひとつに評価されながら、日本国内ではポップカルチャーあるいはサブカルチャーと称され、博物館収蔵資料およびその研究成果の波及効果とみなされていなかった各種の媒体の中でも、特にマンガの中の模写などに利用された事例を集成した。マンガは大衆消費文化として、印刷によって複製された商業出版物は大量に流通し、考古資料の周知に寄与し

たことを推定する基礎情報になる。

また、マンガの対比として、同じように印刷によって大量に複製され流通する学校教育における戦後の日本の検定教科書（社会科および図画工作・美術および芸術）に登場する考古資料の写真掲載事例を集成した。とくに義務教育の小学校・中学校で使用される検定教科書は、戦後の学校教育で多くの人びとの目に触れる機会を提供し、考古資料の周知に大きな影響があったと考えられる。

あわせて商業出版物について関連書、特に歴史書や美術書における考古資料の写真掲載事例を集、成した。博物館収蔵の一次資料の多くは、標本として1点1点に固有の意義があり、展示等の手段で公開することで、それらの資料の有する意義をひろく周知されるが、資料保存の都合等で公開を制限せざるを得ず、その代替としての出版物などで、二次資料のひとつである写真の果たす役割は極めて大きいと理解できる。

これらの事例修正を照会したところ、マンガ等の大衆消費文化を構成する複製出版物に図像化された博物館収蔵資料は、博物館の展示を介して標本の実物をスケッチしたものはほとんどなく、美術書等の商業出版物に掲載された二次資料を介していることをデータベースの構築を通して整理した。模写した参照図譜を推定できなかった作品については、作者への取材を行ったが、詳らかにできなかった。

なお、考古資料がマンガに描かれるようになるには、1970年代後半、日本の商業出版物の中でマンガが一定の地位を占めた後にあたる。戦後に発展したマンガを制作した作家の中では、水木しげる、手塚治虫、松本零士などがその担い手となり、諸星大二郎や星野宣之などがそれに続く。1970年代後半には中東戦争やオイルショックなどの社会世相を反映したオカルトブームを背景とした少年向けの物語に考古資料が登場する傾向がある。その後のマンガ作品でも、引き続き考古資料が描

かれる場面はあるが、取扱いが異なり、物語の舞台装置としての博物館、あるいは考古学を説明する素材に変化する。

現在、考古資料は戦後に日本史を記述する標本の役割を担っているが、それに平行するかたちで戦前から原始美術として商業出版物に取り上げられ、考古資料の周知化に寄与したことも関連して推測された。その波及効果として、美術作品として海外の博物館に収蔵されている考古資料がある。海外で出版された美術の商業出版物には、海外の博物館収蔵の日本出土の考古資料が掲載されており、それ自体の周知のみならず、日本への理解に寄与する波及効果が想定される。

考古資料に限ってみれば、日本史を記述する標本以上に、美術作品としての評価とそれに関わる美術史研究の文脈で、具体的に取り上げられた考古資料1点1点の追跡が今後重要な課題として提起された。

博物館収蔵資料活用と波及効果の事例として、本研究の具体的な対象として特に注目した「火焰土器」は、1964年（昭和39年）の東京オリンピック開催決定にあたって、聖火台のデザインに「火焰土器」を採用する働きかけを小説家松岡譲が行った。1964年（昭和39年）の東京オリンピックでは採用に至らず、同年の新潟国体の炬火台のデザインに採用され、現在の新潟市陸上競技場に残されている。それは博物館収蔵資料を利用した三次資料として、新潟県の地域アイデンティティ形成に寄与し続けている。信濃川火焰街道連携協議会（新潟市、三条市、長岡市、魚沼市、十日町市、津南町）が2020年の東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に「火焰土器」のデザイン採用を推す活動は、それを追認し、拡大する動きと評価できる。

また「火焰土器」のニックネームを付けた縄文土器の出土した馬高遺跡の所在する長岡市では、1964年（昭和39年）に「火焰土器」を商標登録し、使用に関する条例を制定して

いる。近年、各地の公立博物館などが文化財の商標登録をする動きがあるが、その初例であり、博物館収蔵資料を活用した三次資料化を制御する試みといえる。長岡市はマンホールの蓋のデザインに「火焰土器」を採用しており、博物館収蔵資料の三次資料化とその波及効果を企図している。近年、日本各地のマンホールの蓋のデザインに国内外から注目が集まっており、その先見性を評価されよう。

博物館収蔵資料について、実物そのものの一次資料、実物を撮影した写真などの二次資料の利用は、文化財を観光資源とする経済的な波及効果が期待されている。それ以上に、博物館収蔵資料に基づいて制作されるマンガのほか、炬火台やマンホール蓋のデザインに応用したような三次資料は、地域アイデンティティ形成に寄与するとともに、観光資源を創出するという経済的な波及効果をもたらす可能性があり、その起点となる資料を収蔵する博物館、および博物館収蔵資料を研究対象とする考古学研究成果発信の重要性を裏付けるものと評価できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

宮尾 亨、現代に生きる火焰土器、新潟県経済社会リサーチ月報、査読無、Vol.2(No.501)、2015、pp26-27

宮尾 亨、国際縄文フォーラム火焰街道往来 2016、新潟県考古学会連絡紙、査読無、No.112、2017、p5

宮尾 亨、意外なところの JOMON、ジヨームネスクジャパン、査読無、Vol.14、2018、p15

〔学会発表〕(計 4件)

Toru MIYAO, The Olympic story of prehistoric Japanese Jomon Flame pottery, WAC8, 2016, 同志社大学今出川校地

Toru MIYAO, Pictures of Flame pot, Shinano-chikuma river project meeting 2016, Sainsbury Institute for the Japanese Arts and Cultures

宮尾 亨、現代に生きる火焰土器、国立民族学博物館共同研究「考古学の民族誌-

考古学的知識の形成・利用・変成過程の研究」2017、招待講演
宮尾 亨、越後の伝統食から『和の食』へ～縄文食文化を語る～、地域医療研究会全国大会 2017in 魚沼、招待講演

〔図書〕(計 2件)

宮尾 亨、火焰型土器のデザインと機能 Jomonese Japan 2016、信濃川火焰街道連携協議会、2016、112

宮尾 亨、火焰型土器と西の縄文 Jomonese Japan 2017、信濃川火焰街道連携協議会、2017、128

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

宮尾 亨 (MIYAO, Toru)

新潟県立歴史博物館・その他部局等・研究員

研究者番号：90245655

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()